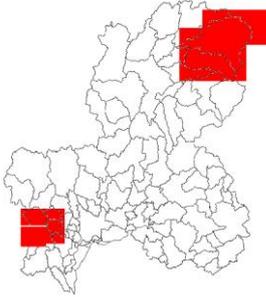


キバナハタザオ	<i>Sisymbrium luteum</i> (Maxim.) O.E.Schulz	絶滅危惧 I 類
		アブラナ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(清水英彦) 
形態の特徴	多年草。茎は直立し、高さ30-120cmになり、あまり分枝しない。葉は有柄で卵形～卵状披針形。花期は6-7月。茎頂の総状花序にやや大きめの黄色の十字状花をつける。長角果は円柱状線形で開出する。	
生態的特徴	山地に生える。	
分布状況	北海道、本州、九州に分布する。県内では県北の北東部及び県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県内の2地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良